2026年3月期 第2四半期
決算説明資料

2025年11月6日

ダイワボウホールディングス株式会社

（証券コード：**3107**）

ダイワボウホールディングスの西村です。
本日はご参加いただきありがとうございます。
それでは2026年3月期中間決算についてご説明いたします。

目次

1．2026年3月期 第2四半期決算（中間期） _P 2

2．ITインフラ流通事業 _P12

3．産業機械事業 _P20

4．2026年3月期 業績見通し _P23

5．株主還元 _P28

【参考資料】 _P31

- ➤ 中期経営計画の概要（2025/3～2027/3）
- ➤ 事業概要
- ➤ ITインフラ流通事業の「取扱高」について
- ➤ 業績推移グラフ

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

本日はこちらの項目に沿ってご説明させていただきます。

2026年3月期 第2四半期決算（中間期）

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

まずは、2026年3月期第2四半期決算についてご報告いたします。

連結決算ハイライト

daiwabo

2026年3月期 第2四半期（2025年4月1日～2025年9月30日）

売上伸長と収益性維持によって上期で初の営業利益200億円超え
下期も好調に推移する見通しから業績予想を上方修正

ITインフラ流通事業	➢ Windows10サポート終了を直前にした中堅・中小企業によるPC更新需要、また本格化したGIGAスクール第2期の納入が全体を牽引し売上高と営業利益を押し上げ ➢ iKAZUCHI(雷) は1Qに続いてPC更新時のクロスセル提案が奏功し、実績を積み上げ ➢ 1Qから売上総利益率が低下した一方、販管費率の減少によって収益性を維持
産業機械事業	➢ 工作機械部門では主力の航空機業界を中心に国内受注が回復傾向。今後の需要に備えた在庫拡充やサービス体制を強化 ➢ 1Qに続き工作機械・自動機械両部門におけるサービス売上の他、自動機械部門における本体販売台数の増加が実績に寄与
業績予想修正	➢ 下期も企業向けのIT需要が堅調、またGIGAスクール第2期による更新需要も引き続き好調に推移する見通しのため、下期および通期の業績予想を上方修正

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

上期のハイライトです。

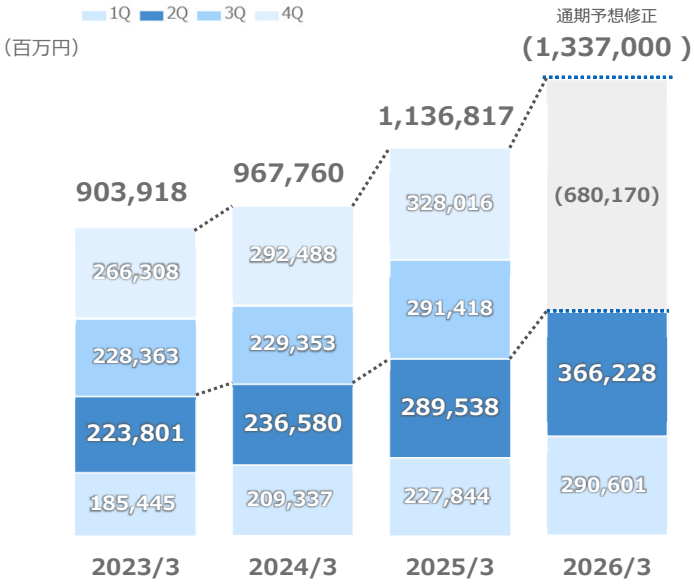
ITインフラ流通事業において、全国に拠点を持つ当社の強みが発揮され、Windowsサポート終了に伴う中堅・中小企業のPC更新需要と、GIGAスクール第2期という全国規模の需要を着実に捉えることができました。

その結果、売上・利益を押し上げ、上期では初の営業利益200億円を超える業績となりました。

また、産業機械事業においては、受注が回復傾向となり、改造、保守、メンテナンスなどのサービス売上比率が向上したことで増収増益となりました。

これら事業の上期業績を踏まえ、下期および通期の予想を上方修正しました。
各事業の状況については後ほどご説明いたします。

2026年3月期 第2四半期　売上高（4～９月）



売上高　**656,830**百万円

前年同期比 ＋**27.0**%

通期進捗率　**49.1**%

上期として
最高売上高を更新

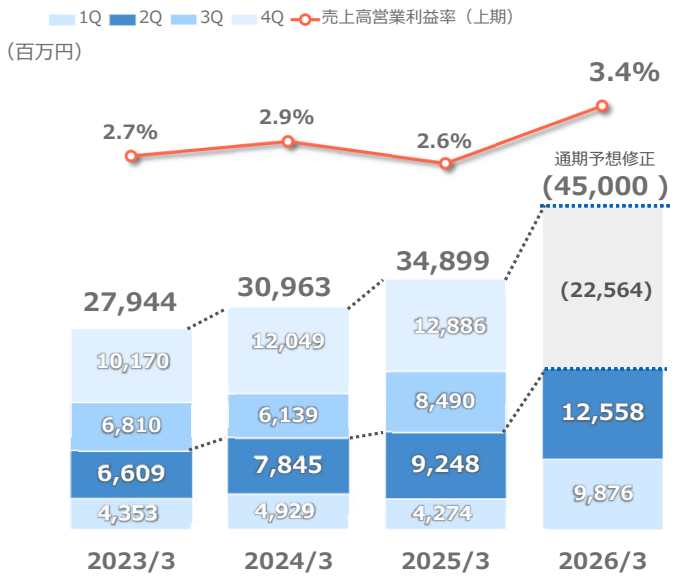
© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

それでは上期のグループ業績について振り返ります。

第2四半期の売上高は6,568億円、前期比で27%の増収となり、上期として過去最高の実績となりました。４半期毎に積上げた実績をグラフにしておりますが、今上期が1Q、2Qともに好調であったことがわかります。

なお、この上期実績は今回修正した通期業績予想に対して、49.1%の進捗となっております。

2026年3月期 第2四半期　営業利益（4～９月）



営業利益　**22,435**百万円

前年同期比 ＋**65.9**%

営業利益率 **3.4**%

通期進捗率　**49.9**%

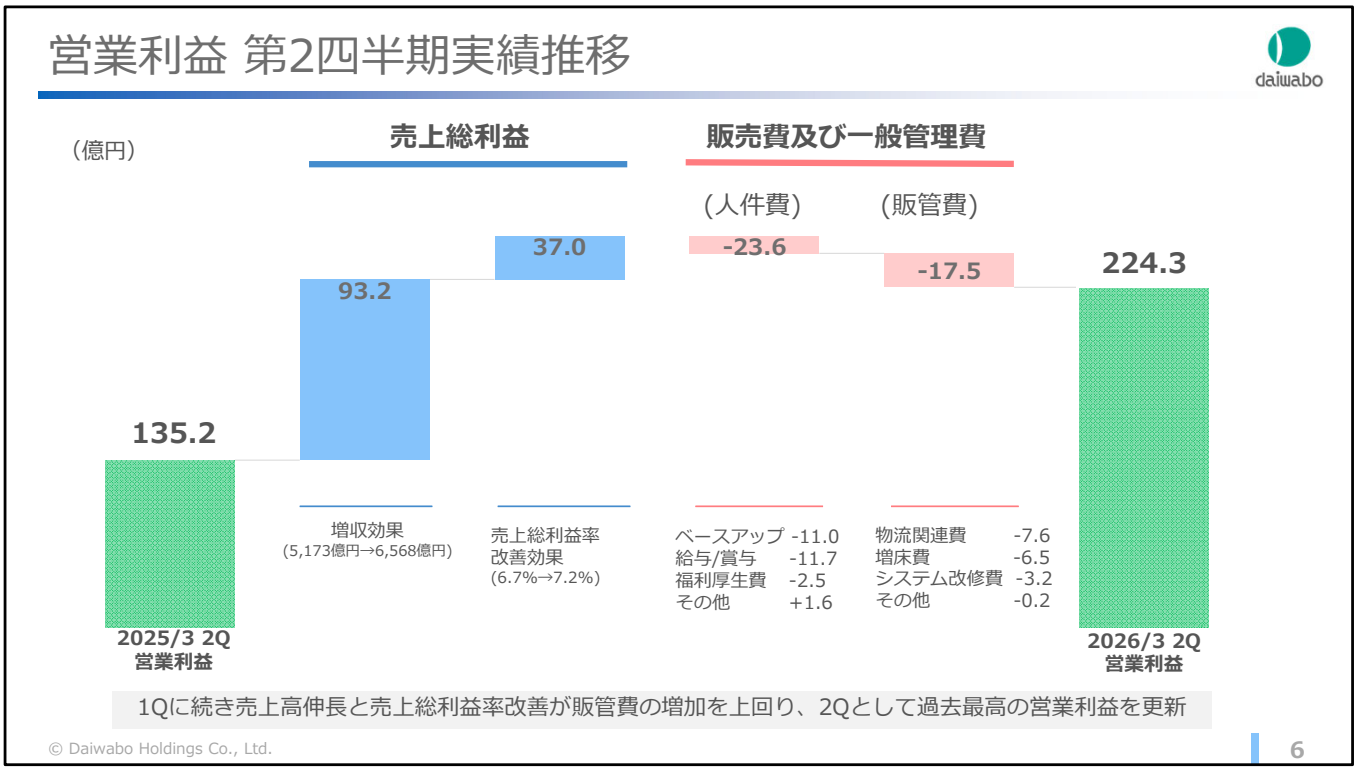
上期として
最高営業利益を更新

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

第２四半期の営業利益実績です。

営業利益は224億円、前期比65.9%の増益となりました。
売上高の伸び以上に営業利益を大幅に伸ばすことができました。これも上期として過去最高の実績となります。

なお、通期予想に対しての進捗率は49.9%となっております。



それでは、営業利益の推移についてご説明いたします。

売上高の増加に加え、中堅・中小企業による需要の高まりを、全国地域の営業拠点が着実に捉えたことで、前年同期よりも利益率が改善し、売上総利益が大幅に増加しました。

人件費については業績向上により、給与・賞与が予定より増加しています。
人件費以外の販売管理費については、概ね予定通り推移しております。

粗利増及び経費増の要因については、ポイントとなる項目を記載しておりますのでご参照いただければと思います。

2026年3月期 第2四半期 連結決算概況（4～9月）

daiwabo

（百万円）	2025/3 2Q	2026/3 2Q	増減	前年同期比	修正後通期予想	進捗率
売上高	517,383	**656,830**	+139,447	+27.0%	1,337,000	49.1%
営業利益	13,522	**22,435**	+8,912	+65.9%	45,000	49.9%
経常利益	13,839	**22,608**	+8,768	+63.4%	45,300	49.9%
親会社株主に帰属する 中間純利益	9,474	**15,736**	+6,262	+66.1%	30,800	51.1%
1株当たり 中間純利益（円）	102.52	**176.04**	+73.52			

（百万円）	2025/3	2025/9	増減	主な増減理由
総資産	440,122	**454,664**	+14,542	商品及び製品在庫の増加
純資産	152,310	**161,224**	+8,913	利益剰余金の増加
自己資本比率	34.6%	**35.5%**		

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

第2四半期の連結決算概況はご覧の通りです。

経常利益は、前年同期比63.4%増の226億円、純利益は、66.1%増の157億円、1株当たりの中間純利益は、176円となっております。

連結の財政状態ですが、総資産は、商品及び製品在庫の増加により、前期末比145億円増の4,546億円、純資産は、利益剰余金の増加により、前期末比89億円増の1,612億円となっております。

なお自己資本比率は、35.5%となります。

2026年3月期 第2四半期 セグメント別業績（4～9月）

（百万円）		2025/3 2Q	2026/3 2Q	増減	前年同期比
売上高	ITインフラ流通	511,053	**649,692**	＋138,639	＋27.1%
	産業機械	6,329	**7,137**	+808	+12.8%
	合計	517,383	**656,830**	＋139,447	＋27.0%
営業利益	ITインフラ流通	13,170	**21,843**	＋8,673	＋65.9%
	産業機械	348	**585**	+237	+68.2%
	（調整額）	4	5	+1	+38.9%
	合計	13,522	**22,435**	＋8,912	＋65.9%

売上高	両セグメントとも販売実績の伸長による増収
営業利益	ITインフラ流通事業の販管費率の減少、また産業機械事業における増収効果、収益性の高いサービス売上伸長による増益

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

こちらはセグメント別にみた第2四半期累計の業績です。

ご覧の通り、売上・利益ともに好調なＩＴインフラ流通事業が大きく牽引し、産業機械事業も前年同期を大きく上回り増収増益となっております。
いずれも営業利益での貢献が見て取れます。

2026年3月期 第2四半期 連結貸借対照表（決算短信P3-4）

daiwabo

（百万円）	2025/3	2025/9	増減		2025/3	2025/9	増減
流動資産	407,778	**419,763**	+11,985	**流動負債**	267,779	**278,668**	+10,889
現金及び預金	55,421	**50,008**	△5,412	支払手形及び買掛金	228,422	**236,515**	+8,092
受取手形及び売掛金	288,495	**274,546**	△13,949	短期借入金	8,904	**12,904**	+4,000
商品及び製品	45,495	**71,351**	+25,856	**固定負債**	20,032	**14,772**	△5,260
有形固定資産	11,252	**12,214**	+962	長期借入金	11,799	**7,532**	△4,267
無形固定資産	4,973	**6,002**	+1,029	**負債合計**	287,811	**293,440**	+5,628
投資その他の資産	16,117	**16,683**	+565	**純資産合計**	152,310	**161,224**	+8,913
				自己株式	△15,088	**△18,469**	△3,380
資産合計	440,122	**454,664**	+14,542	**負債純資産合計**	440,122	**454,664**	+14,542

商品及び製品	45,495	→	**71,351**	+25,856	製品在庫の増加
受取手形及び売掛金	288,495	→	**274,546**	△13,949	DISの売上債権の回収
支払手形及び買掛金	228,422	→	**236,515**	+8,092	DISの仕入債務の増加

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

続きまして、貸借対照表について補足いたします。

資産の部です。
現預金残高は、前期末比54億円減の500億円。目安にしている500億円の水準であり、期末に向けても計画通りに着地すると想定しています。
受取手形及び売掛金は、139億円減の2,745億円。商品及び製品は、258億円増の713億円となっております。こちらは戦略的な商材確保および下期に向けた受注分となりますので、ご安心ください。

負債・純資産の部です。
支払手形及び買掛金は、80億円増の2,365億円となっております。

2026年3月期 第2四半期 連結損益計算書（決算短信P5）

daiwabo

（百万円）	2025/3 2Q		2026/3 2Q		増減	前年同期比
	実績	率	実績	率		
売上高	517,383		**656,830**		+139,447	+27.0%
売上総利益	34,560	6.7%	**47,579**	**7.2%**	+13,019	+37.7%
販売費及び一般管理費	21,038	4.1%	**25,144**	**3.8%**	+4,106	+19.5%
営業利益	13,522	2.6%	**22,435**	**3.4%**	+8,912	+65.9%
経常利益	13,839	2.7%	**22,608**	**3.4%**	+8,768	+63.4%
特別利益	-		**270**		+270	
特別損失	1		**-**		△1	
親会社株主に帰属する中間純利益	9,474	1.8%	**15,736**	**2.4%**	+6,262	+66.1%

特別利益	蘇州大和針織服装有限公司の清算結了に伴う清算益

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

損益計算書について補足いたします。

売上高、各利益についてはこれまで報告した通りですが、売上総利益につきましては、前年同期比130億円増の475億円となっております。

売上利益率は6.7%から0.5%増加し、7.2%でした。

販売費及び一般管理費は、41億円増の251億円となりました。

2026年3月期 第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

daiwabo

（百万円）	2025/3 2Q 実績	2026/3 2Q 実績	増減	前年同期比
営業活動によるキャッシュ・フロー合計	4,871	**6,512**	＋1,641	＋33.7%
投資活動によるキャッシュ・フロー合計	△1,157	**△4,795**	△3,638	-
財務活動によるキャッシュ・フロー合計	△10,157	**△8,000**	＋2,156	△21.2%
現金及び現金同等物期首残高	69,172	**55,221**	△13,951	△20.2%
現金及び現金同等物期末残高	62,976	**48,808**	△14,167	△22.5%

※11月６日時点で監査レビュー中のため、暫定の数値となります。

営業活動によるキャッシュ・フロー	売上債権の減少と仕入債務の増加等
投資活動によるキャッシュ・フロー	DISのシステム構築による支出等
財務活動によるキャッシュ・フロー	自己株式取得による支出の減少等

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

こちらは、上期の連結キャッシュ・フローです。

営業キャッシュフローは、65億円となりました。

また売上高１兆円を超える事業規模を支える体制作りとして、現在システム構築強化を行っているため、投資活動によるキャッシュ・フロー支出が増えております。

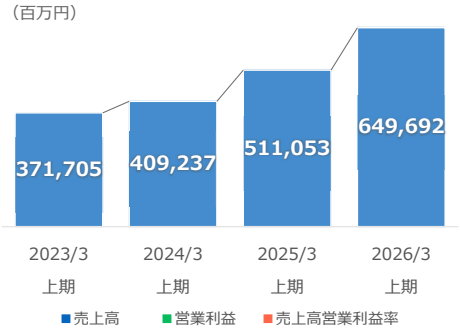
財務活動によるキャッシュフローは、自己株式取得による支出が、前年同期より減少しました。

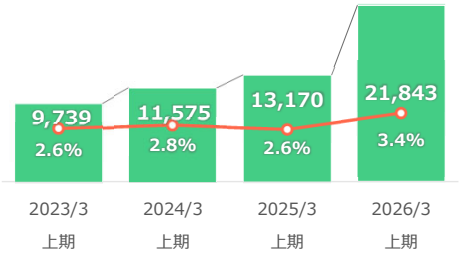
ITインフラ流通事業

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

ここからは各セグメント別の実績と下期の見通しについてご説明いたします。

ITインフラ流通事業





取扱高 ※旧基準売上高	692,721百万円	（前年同期比＋25.6%）
売上高	649,692百万円	（前年同期比＋27.1%）
営業利益	21,843百万円	（前年同期比＋65.9%）
PC出荷台数	311.2万台	（前年同期比+80.7%）
サーバー出荷台数	2.7万台	（前年同期比△3.4%）
iKAZUCHI(雷)取扱高	26,149百万円	（前年同期比+37.2%）

事業概況

コーポレート向け市場	■ 企業向けは、全国の営業拠点網を活かし、Windows10サポート終了に向けた中堅・中小企業によるPC更新需要を着実に取り込む ■ 文教向けは、GIGAスクール第２期の2025年度導入分の納入が本格化。現在は来年度の入札に向けて情報を精査中 ■ 官公庁・自治体向けは、前年同期の大型IT整備案件増から今期は地方公共中規模案件の増加が目立った
コンシューマ向け市場	■ 1Qに続き量販店向けのWindowsサポート終了に伴うPC更新需要が牽引し、コンシューマ全体で前年同期の売上高を上回る

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

まずはITインフラ流通事業です。

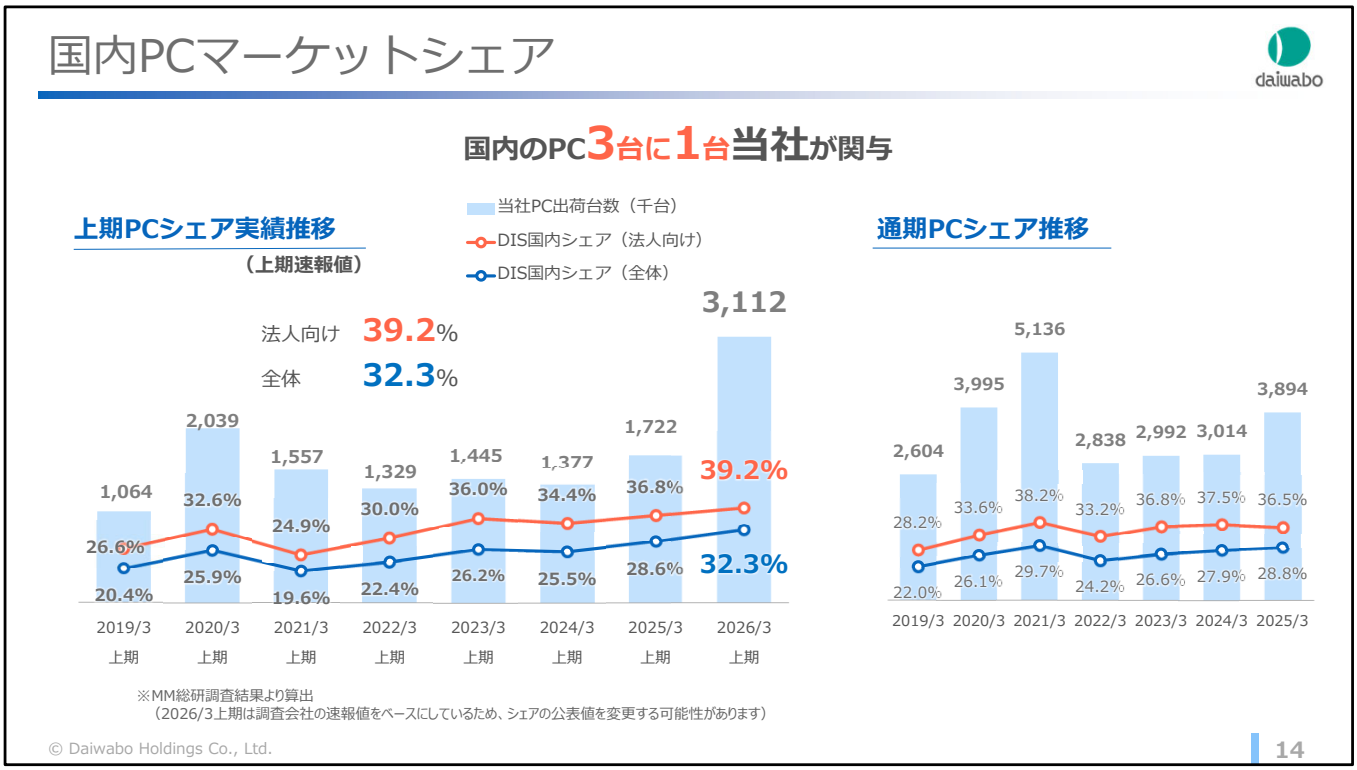
この上期は、企業向けで、10月にサポートが終了したWindows10の中堅・中小企業によるPC更新需要が加速し、売上・利益を大きく牽引しました。

また、文教向けにGIGAスクール第2期の導入が本格化し、こちらも業績に寄与しております。

官公庁・自治体向けでは、前年の大型IT整備案件から、地方公共案件が増加しており、前年同期を上回っております。

注力しているクラウドサービスについても、iKAZUCHI（雷）経由の取扱高が、順調に契約を伸ばしており、サブスクビジネスは計画を上回る進捗をみせています。

以上の結果、ITインフラ流通事業の売上高は、27.1%増収の6,927億円、営業利益は65.9%増の218億円となりました。



こちらは国内PC出荷台数における当社のマーケットシェアの推移です。

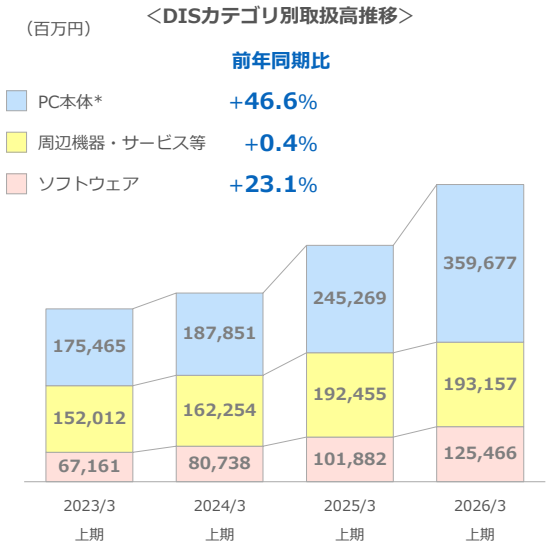
左側のグラフが上期の実績となります。
2020年3月期の上期で初めて200万台を突破しましたが、今上期は一気に300万台を超えた311万2千台を出荷しました。青の折れ線グラフが全体シェアの推移です。速報ベースとなりますが、初めて市場の3割を超える32.3%となりました。

ちなみに赤い折れ線グラフが法人向けに限ったシェアですが、39.2%となっております。

Windows更新需要の高まりをとらえ、国内のPCシェアも増加し、台数・金額ともに大幅に拡大しております。

商品カテゴリ別実績

daiwabo



*PC本体＝PC、サーバー、タブレット、スマートフォン等の端末本体

2026年３月期第2四半期ハイライト

■ PC本体*等
- 主にWindows更新需要によるPC出荷額（+53.6%）とGIGAスクールによるタブレット出荷額（+77.2%）が大幅に増加
- サーバーはデータセンター等のITインフラ構築案件を中心に受注したが、前年同期に獲得した大型案件の反動により減少（△4.9%）

■ 周辺機器・サービス等
- 前年同期に獲得した大型案件の反動によりネットワーク(△7.5%)、ストレージ(△16.3%)が減少
- PC更新需要増加に伴いサービス＆サポート（+13.0%）サプライ等（+6.3%）が伸長

■ ソフトウェア等
- iKAZUCHI(雷)取扱高　+37.2%
- PC増加によるMicrosoft365のクロスセル提案やGIGAスクールでのソフトウェア購入により、クラウドサービスの実績が伸長
- IaaS関連サービス（AWS、Azure等）も継続的に拡大

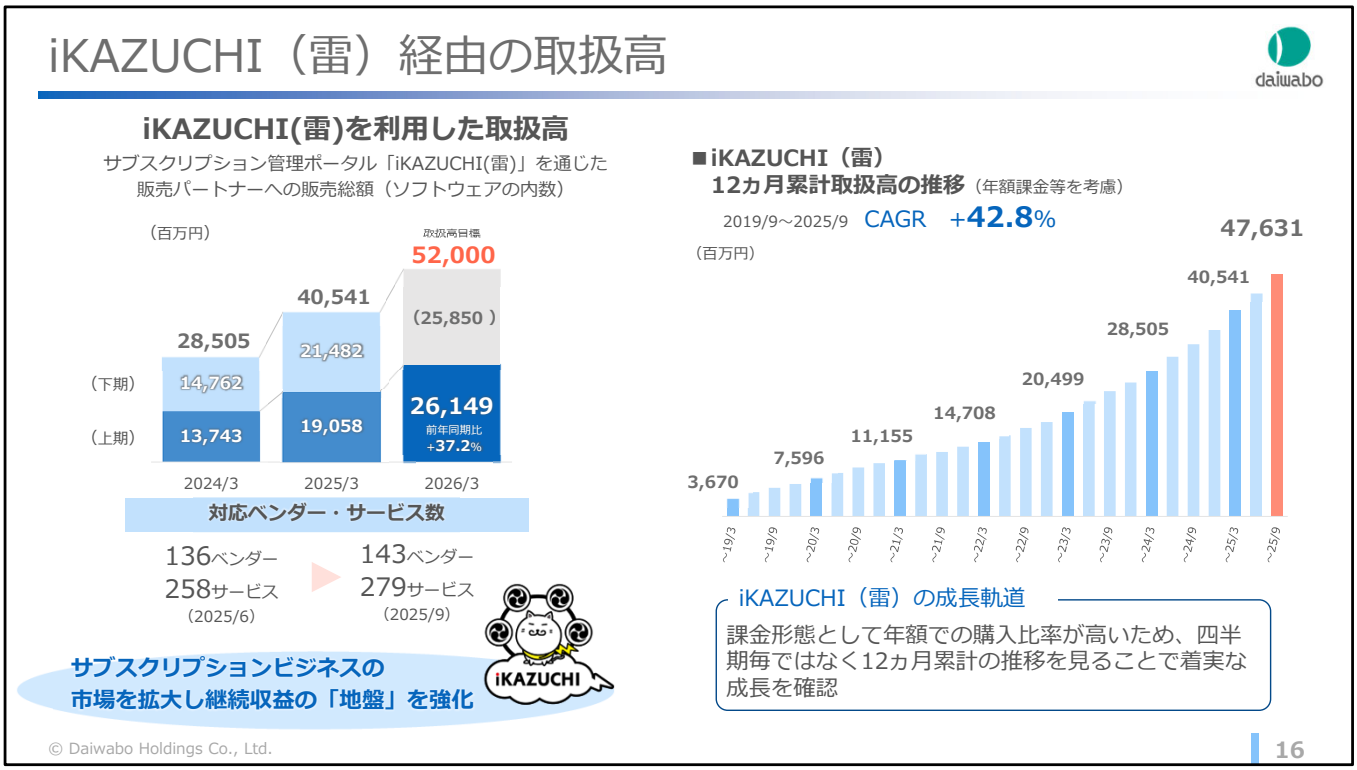
© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

こちらは主要カテゴリの金額ベースで見た実績です。

PCやサーバーなどデバイス販売金額の前年同期比は46.6%増、周辺機器、サービスカテゴリはほぼ横ばいでしたが、ソフトウェアの取扱高が23.1%増とこちらも大きく伸びました。

PCやタブレットの伸び率については右側に記載しておりますのでご参照ください。

ソフトウェアではiKAZUCHI(雷)経由での取扱高が37.2%増と引き続き好調で、ソフトウェア全体の実績を押し上げています。



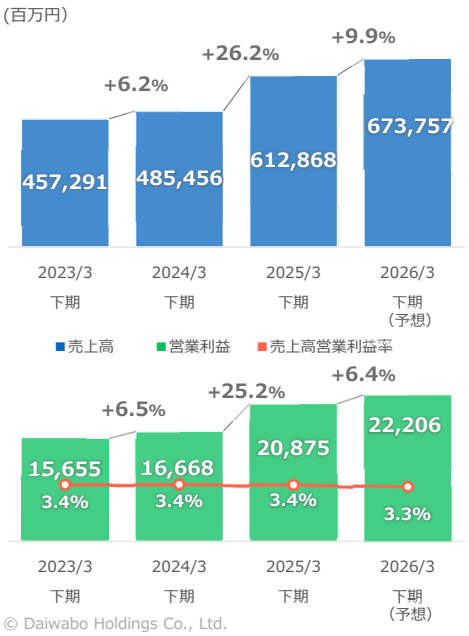
その好調なiKAZUCHI(雷)経由のサブスクビジネスについて報告します。

DISのオリジナルの管理ポータルであるiKAZUCHI(雷)経由の取扱高は、上期実績で261億円でした。

継続課金ビジネスとして着実に成長しており、取り扱いベンダー数やサービスメニューの件数も着実に増え、他社にない優位性を発揮していますので、2026年3月期目標の520億円は十分達成できるものとみています。

4半期累計の推移は右側のグラフになりますが、これがストックビジネスとしての安定基盤につながるものと確信しています。

ITインフラ流通事業　下期（25年10月～26年３月末）見通し



下期の見通し

■ Windows更新需要
10月のサポート終了後も中小企業を中心に一定数の需要が見込まれ、3Qは比較的高い需要が継続し、4Qは徐々に通常期の水準に戻る見通し

■ GIGAスクール第2期
当初想定よりも全体の導入台数が増加し、今期の当社見通しを約1,000億円から約1,400億円に変更。PCの比率が70%に増加しており、PC出荷台数も大幅に増加する予想

■ 営業利益率
Windows更新需要が収束しGIGAスクール案件の比率が高まることにより、営業利益率は微減の見通しだが、利益確保に向けた取り組みを強化する

ITインフラ流通事業の季節性について

通常は多くの国内企業で決算期となる3月と9月に需要が集中する傾向があるが、今期はPC需要の高まりにより、四半期ごとの業績推移は例年と異なる見通し

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

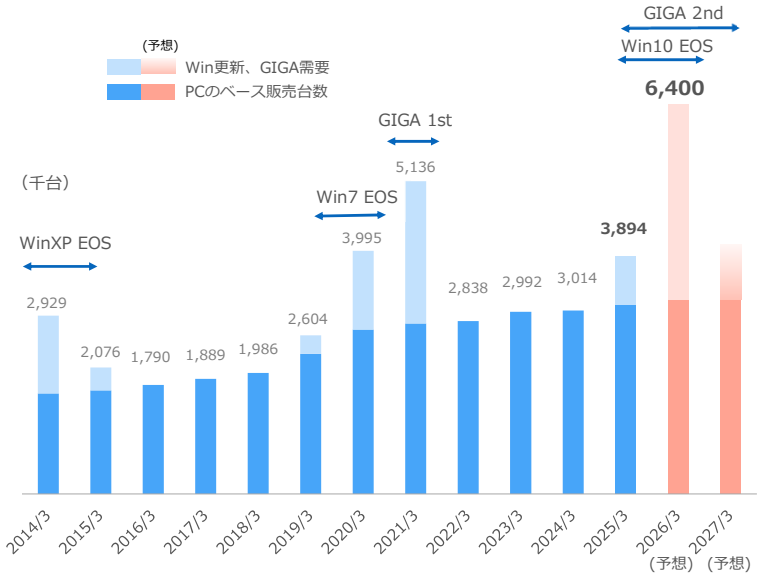
ITインフラ流通事業の下期見通しです。

Windows10のサポートは10月で終了しましたが、中小企業を中心に一定の需要が見込まれるため、3Qは比較的高いPC需要が継続し、4Qは徐々に通常期の水準に戻る見通しです。

GIGAスクールについては、当初想定よりも全体の導入台数が増加しており、今期の当社見通しを約1,000億円から約1,400億円に変更します。更に、PCの比率が60%から70%に増加しており、出荷台数も大幅に増加するとみています。（PCとタブレットの比率　6:4→7:3に変更）

また、営業利益率はGIGAスクール案件の比率が高まることにより、若干下がりますが、利益確保に向けた取り組みを強化して参ります。その他当社の季節性も考慮し、売上高6,737億円、営業利益は222億円の見通しです。

PC出荷台数イメージ



Windows10のサポート終了

- 10月のWindows10サポート終了に向けて更新需要は継続。上期に需要が集中
- 3Qも比較的高い需要が継続し、4Qは徐々に通常期の水準に戻る

GIGAスクール第2期 端末更新

- 25/3～27/3期に全国で約1,000万台の需要があり、今期は※**約600万台**（全体の約60%）の更新を予測
  ※当社試算を上方修正
- 当社はPC＋タブレットや関連製品・サービス等を含めて**約1,400億円**の売上高獲得を目指す

2027年3月期 当社PC出荷予想

- Windows更新需要は終了し約80万台減少
- GIGAスクール需要は全体の30%程の見通し
- AI PCの市場浸透期待を含め底堅い需要は継続

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

こちらは、通年でみた時のPC出荷台数です。

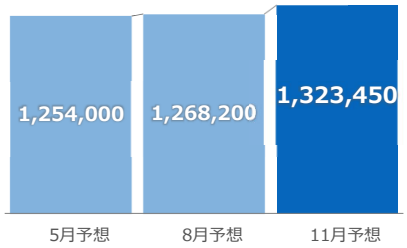
先ほどご説明しました、Windows更新需要およびGIGAスクール、いわゆるイベント特需と言われる分を、社内で精査して表したものです。

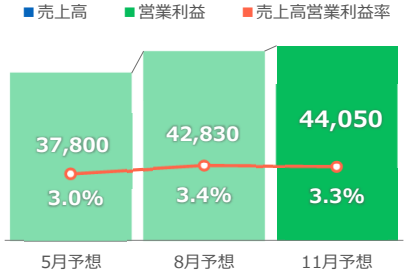
薄い色のグラフ部分が、イベント特需分としていますが、それが無いと仮定した場合でも、濃い色のグラフでお分かりのように、しっかりとオーガニックでの成長をしてきています。

なお今期につきましては、特需分を考慮した上で、PC出荷台数予測を520万台から640万台に変更しました。来年度につきましては、Windows更新需要やGIGAスクールのピークが終わり、全体台数は減少するものの、ベースとなる販売台数はしっかりと伸ばしていく予想です。

ITインフラ流通事業　業績予想と事業戦略

2026年3月期 業績予想推移（百万円）





成長分野でのポジション＆バリューアップ

- クラウドプラットフォーム市場でのシェア拡大
- SaaSモデルにおける事業領域の拡大

業界リーダー企業としてコア領域の深化

- ITデバイス基盤における事業領域の拡大
- 高付加価値商材ビジネス領域の成長
- 技術専門部隊による支援体制を整備し提案力強化

DX推進によるパートナーリレーションシップ

- 企業価値向上に向けたビジネスモデル変革生産性向上の実現
- 先端技術を含む海外ベンダー拡販による事業領域拡大

企業ブランディングと戦略的投資

- 社会認知度向上、業界発展への寄与および地域社会への貢献
- 事業強化に向けた投資（システム、M&A、業務提携）
- 業界最適化に向けた投資（物流機能、iKAZUCHI(雷)）

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

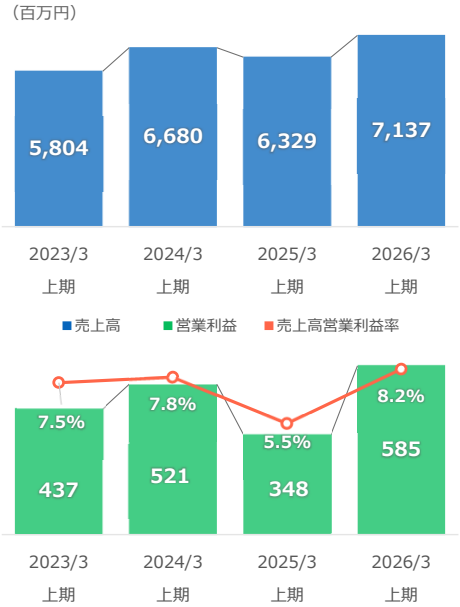
ITインフラ流通事業の今期業績予想につきましては、これまで5月、８月と上方修正をしてまいりましたが、実績と傾向分析に基づき、現時点では売上高を1兆3,234億円、営業利益を440億円とさらに上方修正をしております。

産業機械事業

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

続いて、産業機械事業です。

産業機械事業



売上高	7,137百万円（前年同期比+12.8%）
営業利益	585百万円（前年同期比+68.2%）
受注高	6,583百万円（前年同期比+27.1%）

事業概況	
工作機械部門	■ 日本工作機械工業会の4～9月受注総額は前年同期比5.5%の微増となるなか、当社は主力の航空機業界の他、造船・エネルギー業界からの受注を獲得し大幅増加 ■ 1Qに大型機を売上計上した他、メンテンナンス等のサービス需要を獲得 ■ 短納期販売に備えた生産体制、エネルギー・航空機業界の受注環境回復に伴い予想されるオーバーホールやメンテナンス需要に備えたサービス人材体制の強化を促進
自動機械部門	■ 人手不足を補うための省人化ニーズの高まりを捉え、本体の販売台数が増加したことで増収増益 ■ 期初のシステム障害による影響で営業活動が制限されたこともあり、上期の受注高は前年同期比7.6%減となった。復旧に伴い営業活動強化に取り組む

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

工作機械部門においては、大型機の売上計上やメンテナンス等のサービス需要を獲得し、増収増益。エネルギーや航空機業界の受注も回復傾向にあり、予想されるオーバーホールやメンテナンス需要に備えた体制の強化を促進しています。

自動機械部門では、人手不足を補うための省人化ニーズの高まりを捉え、本体の販売台数が増加したことで増収増益となりました。

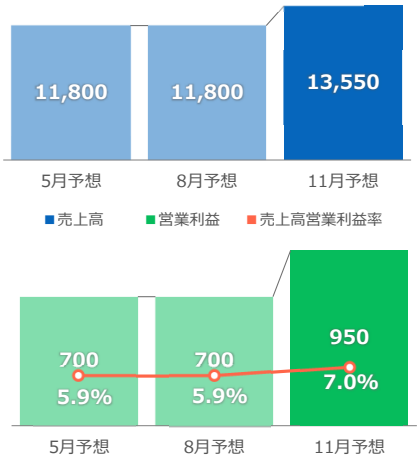
受注においては、期初にシステム障害があったため、営業活動が制限された経緯がありました。それにより受注高は前年同期比7.6%の減少となりましたが、システム障害の復旧に伴い、現在ではこれまで以上に営業活動に注力しております。

以上の結果、産業機械事業の上期売上高は、12.8%増の71億円、営業利益は、68.2%増の5億円となりました。

産業機械事業　業績予想と事業戦略

2026年3月期 業績予想推移

（百万円）



※ランサムウェア被害による営業活動の停滞と復旧作業の影響で、26年3月期下期業績の減少を予想していたが、上期の状況を考慮し上方修正

工作機械における潜在市場への事業拡大

- 省人化・無人化機能搭載の機台による生産効率向上の提案
- 長岡工場増築による戦略的かつ計画的な生産の実施
- 短納期での販売促進を展開し新規市場への拡大を図る
- 海外市場のさらなる拡大に向け成長が見込まれる市場への展開を模索
- 拡大が見込めるエネルギー・航空機業界を重点とした提案営業の強化

自動機械における包装機自動化需要の取り込み

- 受注案件における適切なリスク評価による生産の標準化
- 製造委託推進による原価改善
- 食品・製菓業界に向けて提案営業の強化

サービス強化による収益力向上

- 顧客満足度向上と安定的な収益拡大を図る
- 導入済み機台のオーバーホール提案を重点的に実施
- 協力企業の開拓や社員のスキルアップによる技術力向上

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

上期実績を踏まえたうえで、期初のランサムウェア被害からの復旧に伴い、下期の見通しを引き上げたことで、産業機械事業の通期売上高予想は135億円、営業利益は9億円となります。

2026年3月期 業績見通し

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

それでは、今回上方修正をした 2026年3月期の業績見通しについてご説明いたします。

2026年3月期下期業績予想　＜上方修正＞

daiwabo

（百万円）	2025/3（実績）		2026/3 ①期初予想（5/14開示）		2026/3 ②修正予想（8/5開示）		2026/3 ③修正予想（11/6開示）		増減額 ③-②	増減額 ③-前期	前年同期比
			金額	率	金額	率	金額	率			
売上高	619,434		640,000		640,000		**680,170**		+40,170	+60,735	+9.8%
ITインフラ流通	612,868		634,400		634,400		**673,757**		+39,357	+60,888	+9.9%
産業機械	6,565		5,600		5,600		**6,412**		+812	△153	△2.3%
営業利益	21,376	3.5%	21,630	3.4%	21,630	3.4%	**22,564**	**3.3%**	+934	+1,187	+5.6%
ITインフラ流通	20,875	3.4%	21,350	3.4%	21,350	3.4%	**22,206**	**3.3%**	+856	+1,330	+6.4%
産業機械	504	7.7%	280	5.0%	280	5.0%	**364**	**5.7%**	+84	△139	△27.7%
経常利益	21,615	3.5%	21,780	3.4%	21,780	3.4%	**22,691**	**3.3%**	+911	+1,076	+5.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	15,277	2.5%	15,000	2.3%	15,000	2.3%	**15,063**	**2.2%**	+63	△214	△1.4%
1株当たり当期純利益（円）	-		-		-		**169.23**		-	-	

修正理由　下期も企業向けのIT需要が引き続き好調に推移し、GIGAスクール第2期による更新需要も継続する見通しのため、下期の業績予想を修正

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

まず、下期の業績予想です。

売上高は、企業向けのIT需要が引き続き好調に推移し、GIGAスクールの今期導入も増加する見通しから、期初予想より401億円増加の6,801億円となります。

営業利益は、225億円、営業利益率は3.3%の予想です。

2026年3月期 通期業績予想　＜上方修正＞

daiwabo

（百万円）	2025/3（実績）		2026/3 ①期初予想（5/14開示）		2026/3 ②修正予想（8/5開示）		2026/3 ③修正予想（11/6開示）		増減額 ③-②	増減額 ③-前期	前年同期比
			金額	率	金額	率	金額	率			
売上高	1,136,817		1,265,800		1,280,000		**1,337,000**		+57,000	+200,182	+17.6%
ITインフラ流通	1,123,922		1,254,000		1,268,200		**1,323,450**		+55,250	+199,527	+17.8%
産業機械	12,895		11,800		11,800		**13,550**		+1,750	+654	+5.1%
営業利益	34,899	3.1%	38,500	3.0%	43,530	3.4%	**45,000**	**3.4%**	+1,470	+10,100	+28.9%
ITインフラ流通	34,045	3.0%	37,800	3.0%	42,830	3.4%	**44,050**	**3.3%**	+1,220	+10,004	+29.4%
産業機械	852	6.6%	700	5.9%	700	5.9%	**950**	**7.0%**	+250	+97	+11.5%
経常利益	35,454	3.1%	38,800	3.1%	43,830	3.4%	**45,300**	**3.4%**	+1,470	+9,845	+27.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	24,751	2.2%	26,700	2.1%	30,100	2.4%	**30,800**	**2.3%**	+700	+6,048	+24.4%
1株当たり当期純利益（円）	271.37		297.26		335.73		**346.04**		+10.31	+74.67	

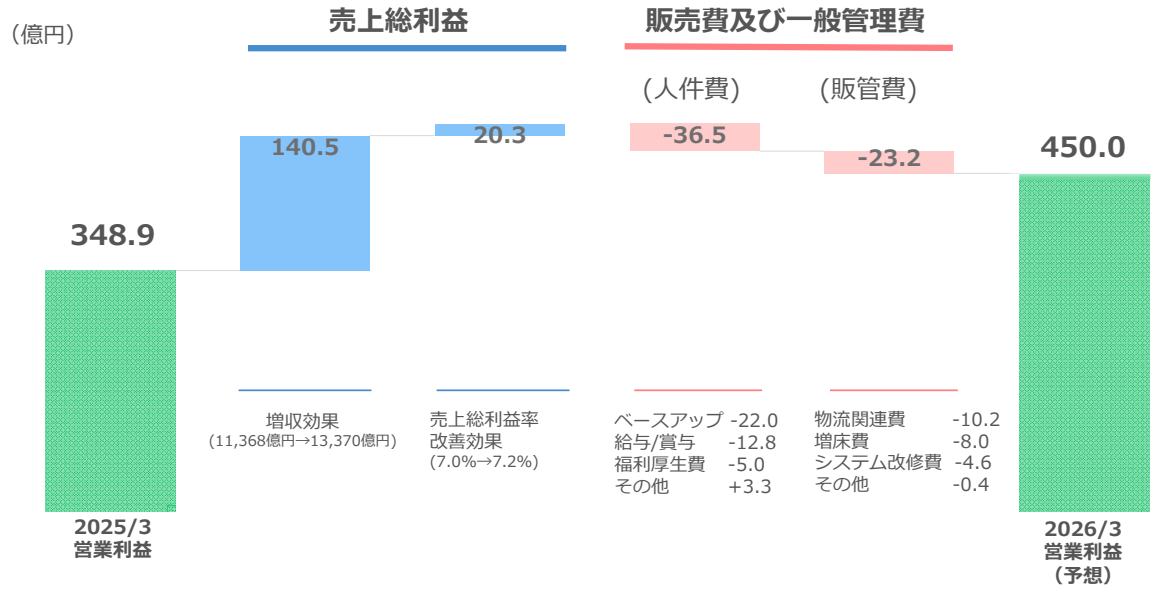
修正理由　下期の業績予想修正に伴い、通期見通しを修正

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

以上より、通期の業績予想は、売上高1兆3,370億円、営業利益450億円となります。

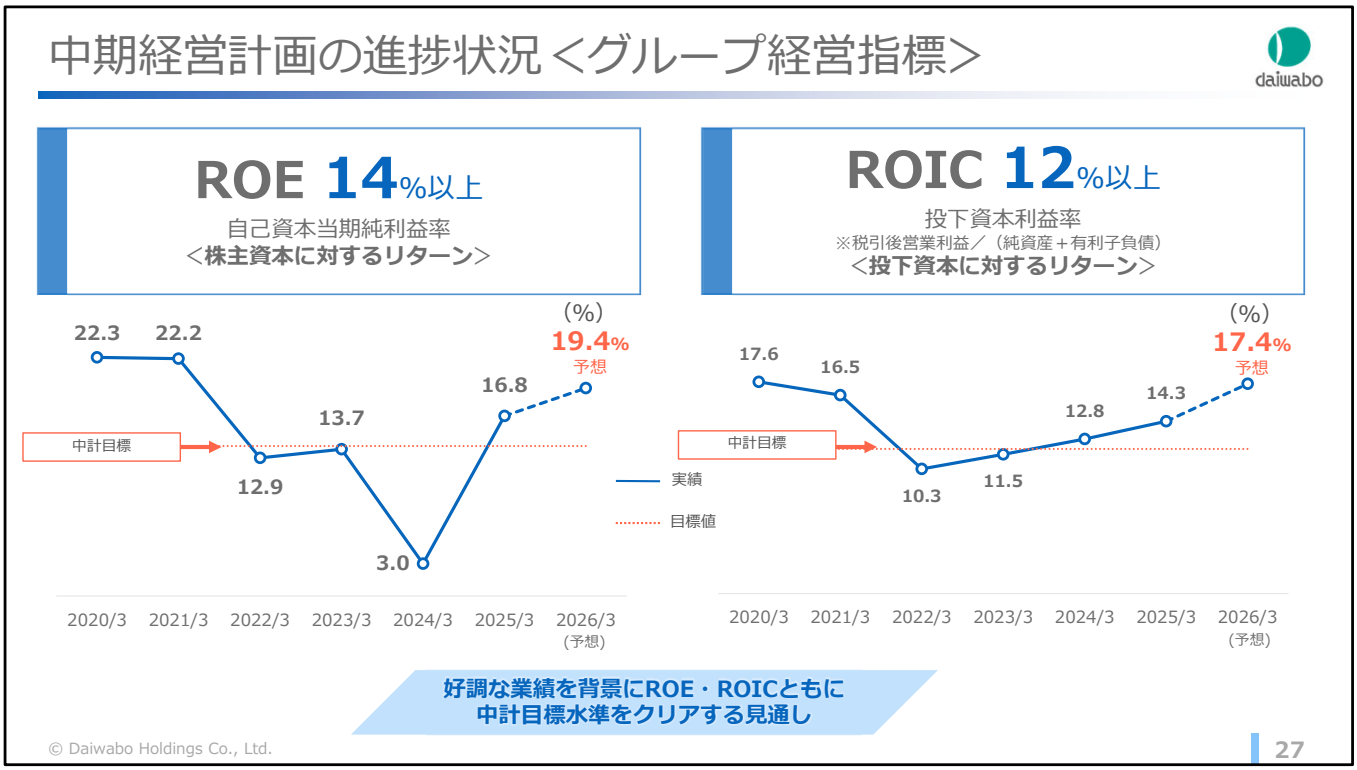
当期純利益は、308億円、1株当たりの当期純利益は346円の予想です。

営業利益 通期見通し



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

営業利益の今期見通しの推移です。
前年に比べて人件費の給与・賞与が増加しています。
販管費のシステム改修費は、構成見直しなどにより、計画より大幅に削減できる見込みです。
その他、主な要因項目を記載しておりますのでご参照ください。



次にグループ経営指標についてご報告いたします。

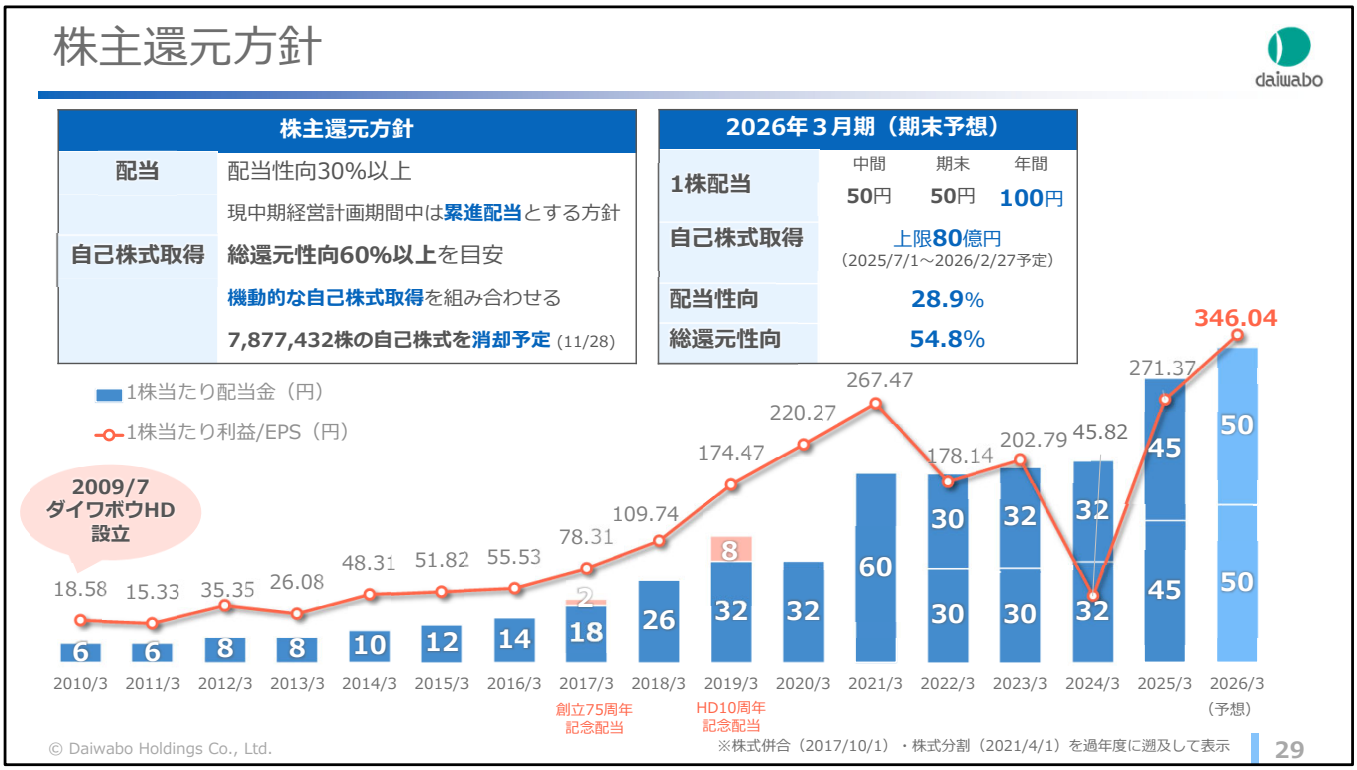
当社では、ROEとROICを重要な経営指標として位置づけ、設定した目標を上回るよう事業会社との連携に努めております。

2026年3月期のROEは19.4%の予想です。ROICについても、目標を大きく上回り17.4%の予想となります。

株主還元

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

それでは、株主還元についてご説明いたします。

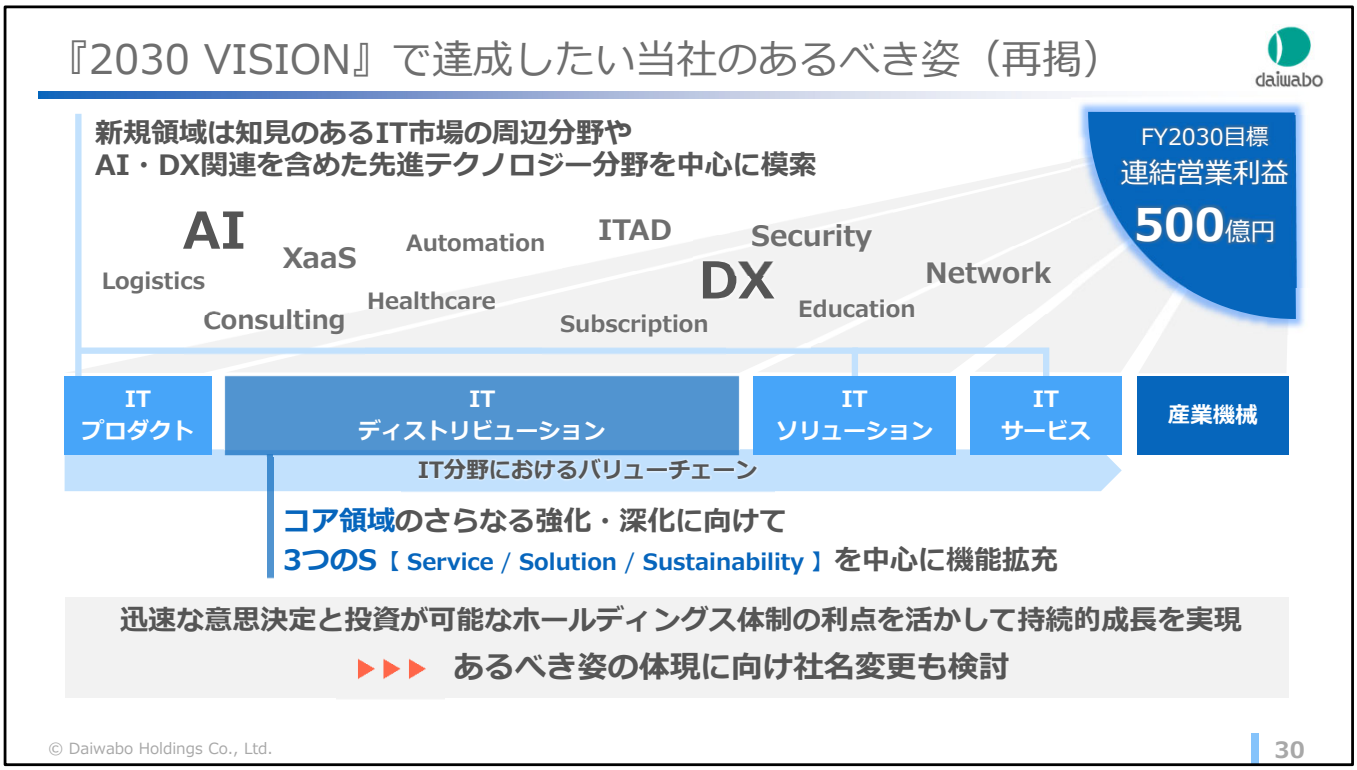


設立以降の、1株あたりの配当金、およびEPSの推移はご覧のとおりです。

2026年3月期の配当については、中間50円、期末50円の100円を予定しております。
自己株式取得は、上限80億円として7月開始で、現在取得中となります。

また、自己株式の消却を11月28日に実施します。約787万株を消却予定です。

以上により、第2四半期終了時点での、期末予想配当性向は28.9%、総還元性向は54.8%となる見通しです。
還元方針に変更はありませんので、今後の業績に応じて適宜判断して参ります。



最後になりますが、あらためて『2030 VISION』で達成したい当社のあるべき姿を記載しております。

2030年度に、連結営業利益500億円の達成に向けて、既存のITインフラ流通事業はITディストリビューション分野として絶対的なコアとしつつ、新たな事業領域を模索し、最適な事業ポートフォリオの検討を進めています。
現時点で詳細はお伝え出来ませんが、持続的成長に向けて、様々な検討をしております。

また、社名変更についても、現在プロジェクトを進めておりますので、決定事項がありましたら速やかに開示し、発信して参ります。

説明は以上になります。ありがとうございました。

参考資料

- 中期経営計画の概要（2025/3～2027/3）
- 事業概要
- ITインフラ流通事業の「取扱高」について
- 業績推移グラフ

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

新中期経営計画　グループ基本方針

01
ホールディングス体制での成長

- 持株会社として新たな事業領域への参入を探求
- 事業会社はセグメント内での強化・再編に着手

02
"過去最高"へのチャレンジ

- 売上高、利益における過去最高業績の更新
- 会社、組織、事業、個人それぞれのフィールドでベストパフォーマンスを目指す

03
ステークホルダーエンゲージメントの向上

- 株主、取引先、従業員、地域社会などとの信頼関係向上と相互理解による協働
- 人的資本、システム、ガバナンス面など必要とされる経営基盤のさらなる強化
- ウェルビーイング経営の推進

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

中期経営計画の進捗状況＜損益＞

中期経営計画の進捗

（億円）	2025/3期（計画）	2026/3期（計画）	2027/3期（計画）
売上高	9,750	10,500	10,000
営業利益	311	350	330
営業利益率	3.2%	3.3%	3.3%

※中計2年目以降の予想を更新
※11/6　上方修正

（億円）	2025/3期（実績）	2026/3期（予想）	2027/3期（予想）
売上高	11,368	13,370	11,400
営業利益	348	450	360
営業利益率	3.1%	3.4%	3.2%

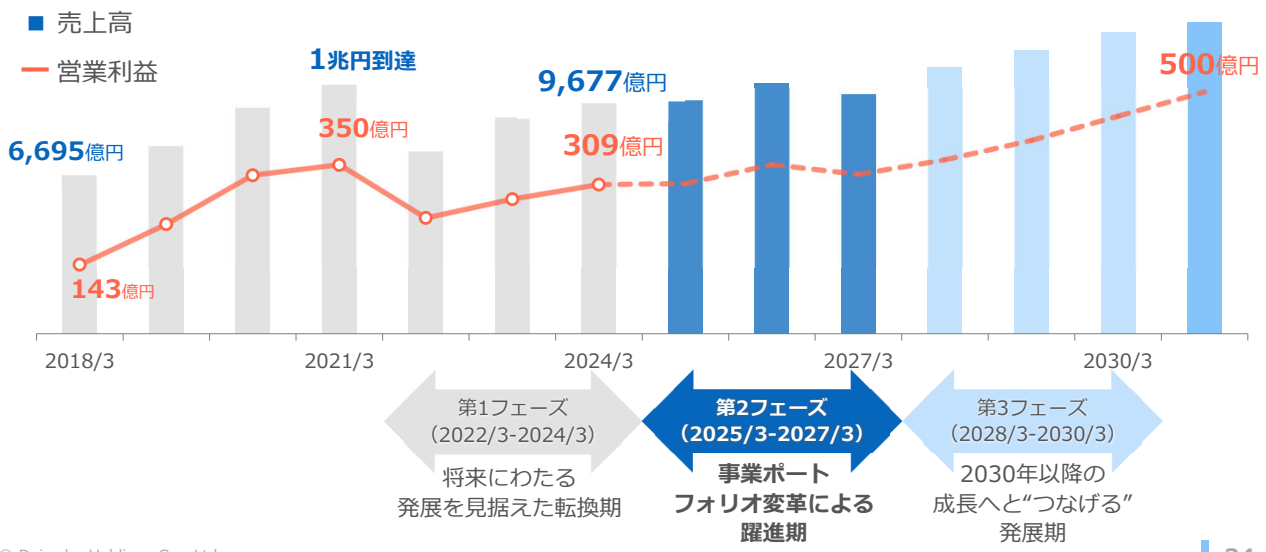
今後の見通し

- 人手不足に対するIT投資の拡大に伴い、特需を除くベースの需要は着実に成長が続く見込み
- 市場のPC出荷台数に頭打ち感はあるものの、AI PCによる単価上昇や用途拡大等に伸びしろあり
- 最も成長率の高いクラウド関連領域にもiKAZUCHI(雷) を中心に関与し、関連サービスを拡充
- M＆Aの活用も含め新規領域への拡大を推進し利益率の向上を図る

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

中期経営計画の位置づけ

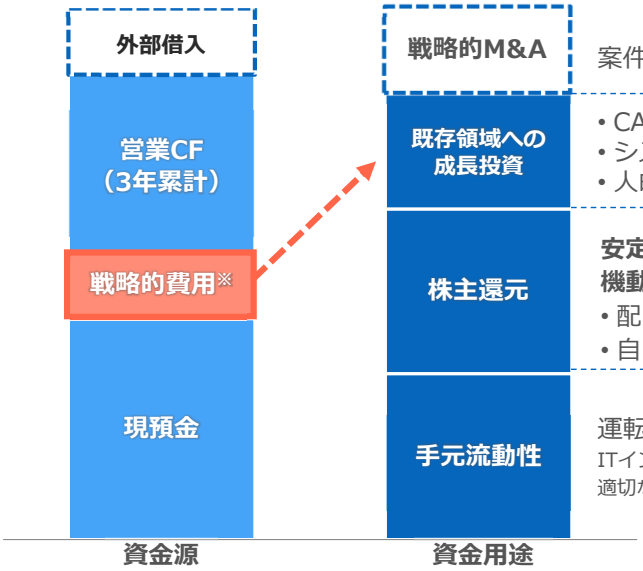
『2030 VISION』からバックキャストする観点でも重要な３ヵ年



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

キャピタルアロケーション方針（2025/3期～2027/3期）

3ヵ年累計でのキャピタルアロケーションイメージ



案件規模に応じ自己資金だけでなく外部借入等を活用

- CAPEX（設備投資・研究開発）：**150億円→110億円**
- システム投資※（経費）：**80億円以上**
- 人的資本投資※（経費）：**100億円→140億円以上**

安定的な配当（現中計期間中は累進配当とする方針）
機動的な自己株式取得を組み合わせ**（今後消却も検討）**

- 配当：**配当性向30%以上**
- 自己株式取得：**総還元性向60%以上**を目安

運転資金として**500億円程度**の現預金を保持
ITインフラ流通事業における月商および運転資金から試算し
適切な水準の手元流動性を確保

※成長投資のうち会計上費用とされるシステム投資と人的資本投資のうち、
2024/3期実績からの増加分をカウント

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

人的資本戦略

daiwabo

中期経営計画

人的資本投資
（3ヵ年で※**100**億円以上）

＋

ウェルビーイング経営

人的資本施策

ダイバーシティ推進
― 女性活躍推進、シニア活躍推進 等

人材採用の強化
― グループ採用、キャリア採用 等

育成環境の整備
― 研修・OJT、リスキリング支援 等

従業員エンゲージメント向上
― 処遇・評価、福利厚生、サーベイ 等

健康経営の推進
― 健康保険、労働時間管理、安全衛生 等

新事業・新製品の展開

従業員一人ひとりのチャレンジ姿勢の強化

従業員の発想力・スキル向上 稼働効率UP

生産管理能力強化による納期・在庫の改善

労働生産性の向上
▼
利益率 資本回転率 アップ
▼
ROIC向上

グループ連結の労働生産性
1人当たり売上高 目標値
3ヵ年平均 **+5.7**%以上

TOPICS

- ➤ 2023年以降グループ各社にて**大幅な賃金ベースアップ**（初任給改定含む）を実施
- ➤ 今期も大幅なベースアップとともに、教育や福利厚生の充実などに積極投資
- ➤ 中計で予定していた3ヵ年で100億円以上の人的資本投資を※**140億円以上**に拡大
- ➤ DISにて「**健康経営優良法人2025**」の認定を取得

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

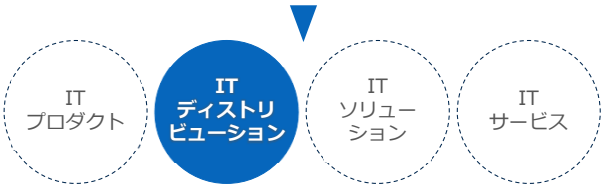
M&Aに関する考え方

さらなる成長のために、M&Aを積極的に推進する計画
事業領域とハードルレートを意識した規律ある投資判断により実施する

事業領域

M&Aは以下の事業領域を中心に実施を検討

- AI
- DX
- XaaS
- Subscription
- Network
- Logistics
- ITAD
- Consulting
- Security
- Automation
- Education
- Healthcare



投資・調達の意思決定

定量的に投資判断を実施

資本コストを上回るか
株主資本コスト：6.2%~7.5%　WACC：5.8%~7.0%

長期的にEPSの向上に資するか
自己株式の取得と比較検討

財務健全性：長期的に格付A※を維持

資本効率を低下させないか

資金調達方針
小規模のものは手元資金で賄うが、必要に応じて借入を中心に資金調達

※日本格付研究所（JCR）による長期発行体格付

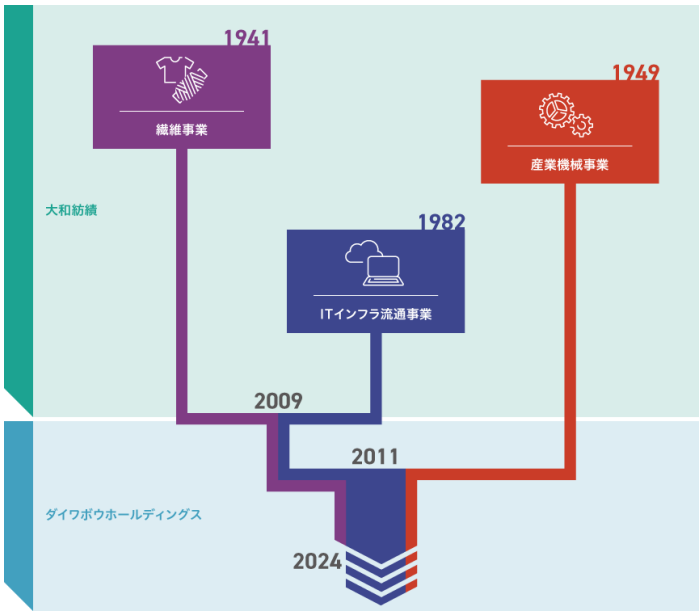
© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

参考資料

- 中期経営計画の概要（2025/3～2027/3）
- 事業概要
- ITインフラ流通事業の「取扱高」について
- 業績推移グラフ

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

グループの沿革



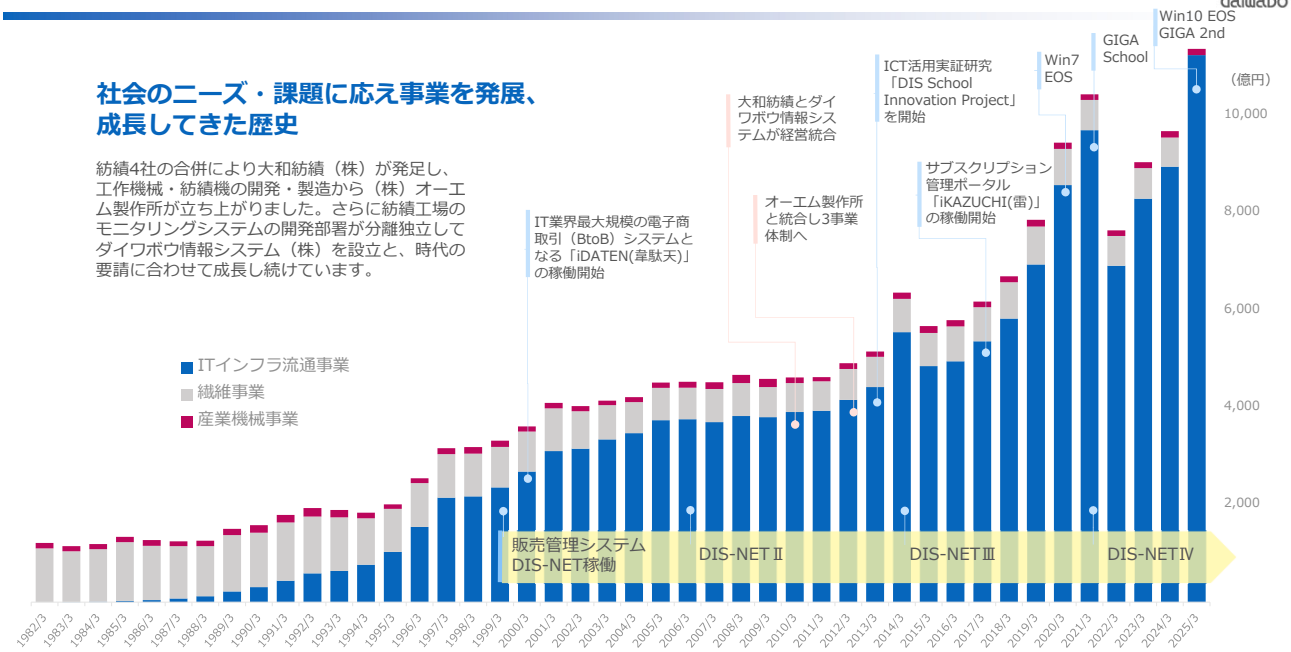
1941. 4	錦華紡績、日出紡織、出雲製織および和歌山紡織の4社が合併し、**大和紡績**として発足
1949. 5	大和紡績が東証1部上場
1949. 7	大和紡績が宍道工場を分離し、大和機械工業（現**オーエム製作所**）を設立 →その後、工作機械・紡績機の製造を手掛けていた大阪機械製作所と1960年に合併しオーエム製作所が誕生
1971.11	オーエム製作所が東証1部上場
1982. 4	大和紡績が新規展開の一環として、情報関連事業へ進出するために**ダイワボウ情報システム**を設立
2000. 9	ダイワボウ情報システムが東証1部上場
2009. 4	大和紡績とダイワボウ情報システムが経営統合
2009. 7	大和紡績が**ダイワボウホールディングス**へ商号変更 繊維事業の中核会社として新たに**大和紡績**を設立
2011. 7	ダイワボウホールディングスとオーエム製作所が経営統合　**⇒3事業体制へ**
2023.11	大和紡績の独立化（株式譲渡）を決定
2024. 3	株式譲渡により**大和紡績が独立**

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

価値創造の歴史

社会のニーズ・課題に応え事業を発展、成長してきた歴史

紡績4社の合併により大和紡績（株）が発足し、工作機械・紡績機の開発・製造から（株）オーエム製作所が立ち上がりました。さらに紡績工場のモニタリングシステムの開発部署が分離独立してダイワボウ情報システム（株）を設立と、時代の要請に合わせて成長し続けています。



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

ダイワボウ情報システム（DIS）の歩み

daiwabo

1982　DIS創業

- 大和紡績が、PC活用による生産現場のモニタリングシステムを自社開発したノウハウを生かして、わずか10名でスタート
- システム開発・販売ではなく、PCをはじめとした情報機器の販売にシフト

1983-1984　多店舗展開

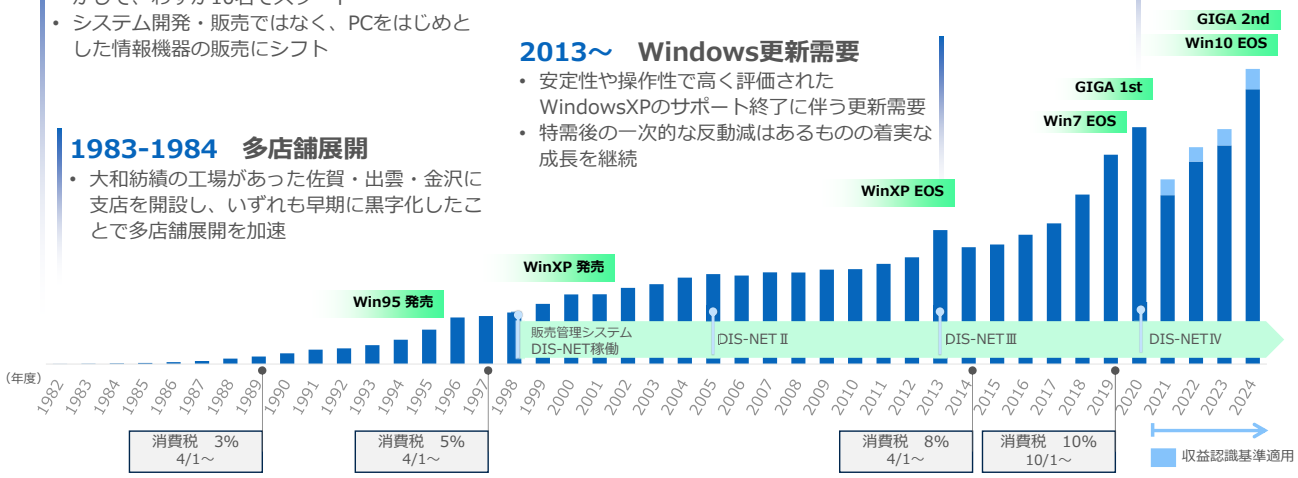
- 大和紡績の工場があった佐賀・出雲・金沢に支店を開設し、いずれも早期に黒字化したことで多店舗展開を加速

2013～　Windows更新需要

- 安定性や操作性で高く評価されたWindowsXPのサポート終了に伴う更新需要
- 特需後の一次的な反動減はあるものの着実な成長を継続

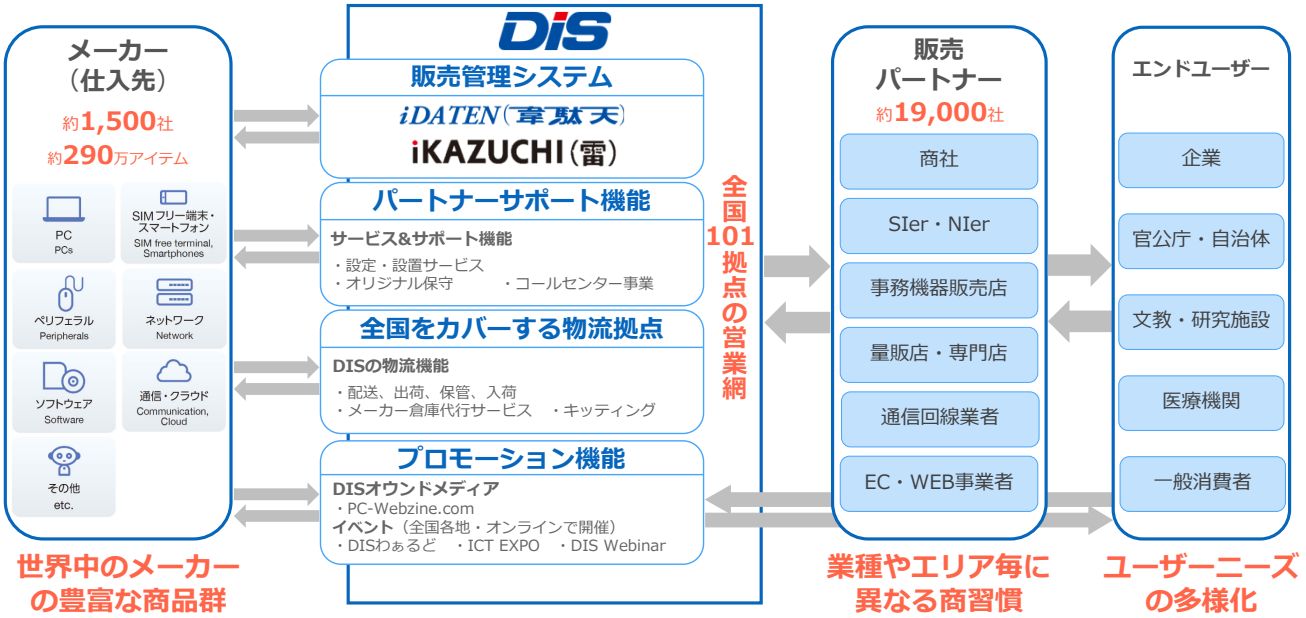
2020～　GIGAスクール構想

- 小中学校で1人1台に端末を整備し、高速大容量の通信ネットワークを構築するなど、学校のICT環境を整備する文部科学省による取り組み



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

ITインフラ流通事業の事業構造



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

ディストリビューターの役割と付加価値

daiwabo

メーカー（仕入先）

約1,500社　約290万アイテム

商品開発
営業・販促
受注・生産
在庫・出荷
請求・回収

DISの営業網を活用し販路拡大・販売業務効率化

- 長年培ったサプライチェーンマネジメントにより**全国の需要量・ニーズを連携し、メーカーの生産計画やプロモーションに反映**
- 物流センターをメーカーの倉庫機能として活用することで、**メーカーの時間・コスト節約に加えて、キッティングや他社製品と組み合わせた出荷を実現**
- 海外から日本市場に新規参入するメーカーと協業し**国内を網羅した販売網・配送網を提供**

一本化・協業・代行

DIS の役割

一本化・協業・代行

- 全国101拠点の営業網
- 物流センター
- 商品選定・提案
- 市場ニーズの把握
- キッティング
- 保守サポート

販売パートナー

約19,000社

選定	設定
提案	納品
見積	支払
発注	顧客対応

DISの機能を有効に活用することで自社の得意なビジネス領域に注力

- 様々なメーカーの商品・情報を取り揃え、**最適な組み合わせで提案・提供**
- 豊富な在庫から販売パートナーに代わって**全国のエンドユーザーにスピーディに納品**
- 出荷前のキッティングや運用、保守、延長保証等の**技術サービスをワンストップで提供**
- 地域特性に応じたイベント開催・プロモーションなど**全国拠点を活用した需要創出**

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

物流センター効率化

関西センター（神戸市）

2020年5月本格稼働

倉庫面積：36,342㎡

関東中央センター（埼玉県吉見町）

2016年6月本格稼働

倉庫面積：44,753㎡

東西メガセンターを中心に
効率化・生産性向上に注力

ロボットストレージシステム

→作業効率・スペース最適化

【ロボット稼働台数】

関東中央：**45**台、関西：**30**台

キッティングセンター併設

→入荷＞作業＞出荷に迅速対応

PC・タブレット キッティング実績：年間**26.2**万台（2025/3期）

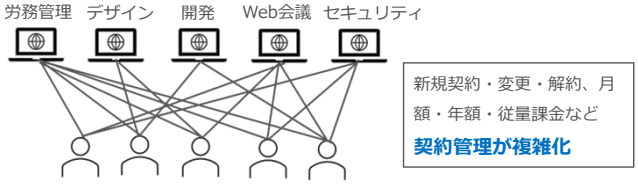
トラック予約受付システム

→入出荷情報の共有・車両平準化

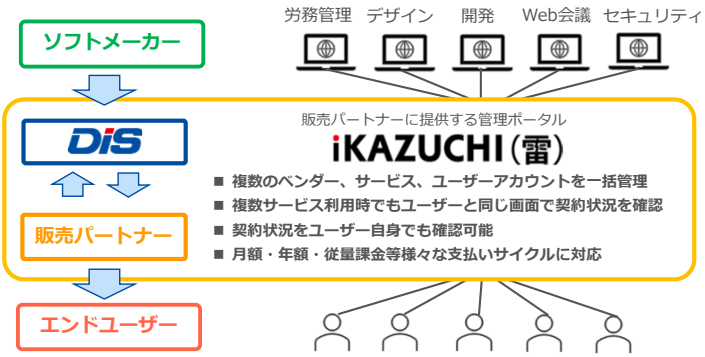
© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

iKAZUCHI（雷）によるサブスク管理

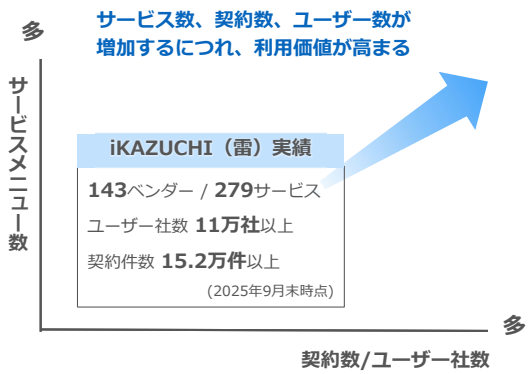
複数サービスを直接利用している状態



iKAZUCHI（雷）とはサブスク管理プラットフォーム



iKAZUCHI（雷）がもたらすネットワーク効果



iKAZUCHI（雷）を利用することによって販売パートナーの利便性が向上するだけでなく、ユーザー社数が増えるほどベンダーにとってもiKAZUCHI（雷）にサービス掲載する価値が増加。さらにサービスメニューの増加はユーザーにとっても利用価値が高まる

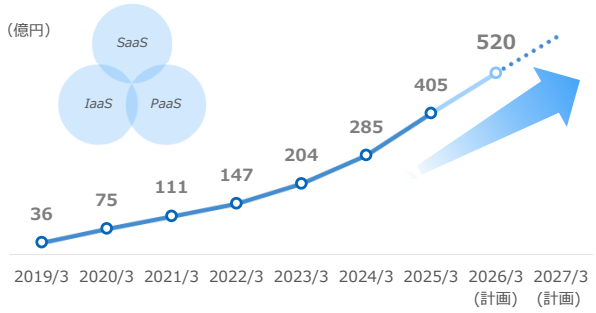
© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

iKAZUCHI(雷)経由の販売目標と登録販売店数の推移

iKAZUCHI(雷)取扱高

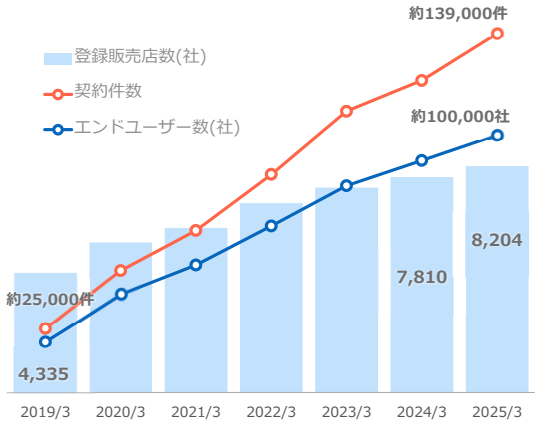
サブスクリプション管理ポータル「iKAZUCHI(雷)」
を通じた販売パートナーへの販売総額

2024/3～2027/3**CAGR30%以上**の成長を目指す



サブスクリプションビジネスの
市場を拡大し継続収益の「地盤」を強化

登録販売店数の推移

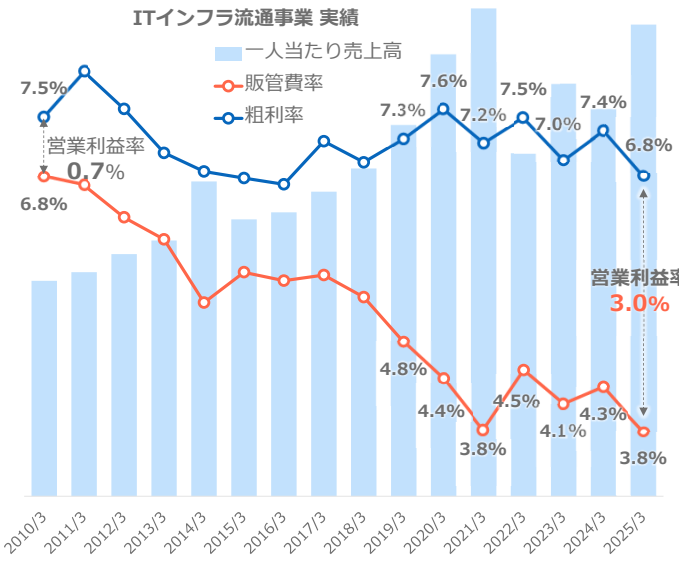


対応ベンダー数

24社 **38**社 **65**社 **88**社 **115**社 **130**社 **137**社
(2025/3)

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

営業効率化とローコストオペレーション

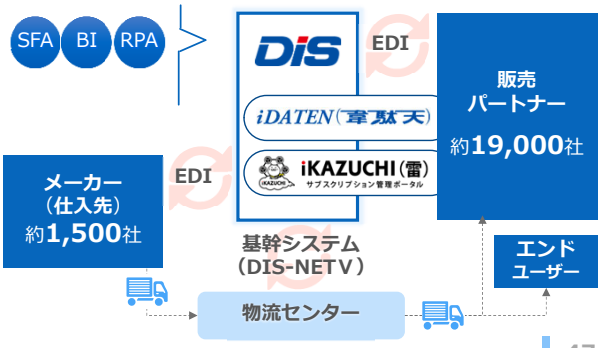


※連結調整を反映しておりませんのでセグメント実績とは異なります

1兆円を超える売上高を支えるシステム基盤の強化

3ヵ年で以下の機能強化を実施

- 性能向上のため機器スペック増強、可用性改善
- 既存システムの移行、非互換プログラムの改修を含むマイグレーション
- 災害・障害・セキュリティ対策と運用管理改善・可用性向上
- 社内システム連携強化、自動化
- iDATEN（韋駄天）、iKAZUCHI（雷）、EDIなどの機能強化



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

産業機械事業　― 製品事例 ―

立旋盤

- 中・大型で**国内シェアNo.1**（累計出荷台数**7,700**台超）
- 「立旋盤のオーエム」として国内外で高い評価を獲得
- 工作物を水平方向に回転するテーブルに取り付けて切削する機械で、テーブル径は800～6,000mmと幅広く多様な生産形態に対応し、高剛性・高精度で操作性に優れ、航空機エンジン、風力発電の部品をはじめ、あらゆる分野のマザーマシンとして活躍
- 左の写真は小型汎用機「RT-915」

車輪旋盤

- 鉄道車両のメンテナンスに使われる専用工作機械で鉄道の安全と乗り心地の向上に寄与
- 床下車輪旋盤で**国内シェアNo.1**
- 世界初の車輪旋盤を製作し全世界向けに多くの納入実績のあるドイツのヘーゲンシャイト社より技術供与を受けて国産化、設計・部品・ソフトウェアはすべてオリジナル製作

自動機械

- カートナー（小箱詰機）や、個包装された商品を集積してフィルムで包む中間包装機、段ボールケーサーなど幅広い自動機械を製作（左の写真は横型連続カートナー）
- ライフサイクルが短く多様化が顕著な食品や、製造基準の厳格化が進む医薬品など、変化の激しい分野の包装工程のニーズに柔軟に対応できる技術と発想力が強み

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

参考資料

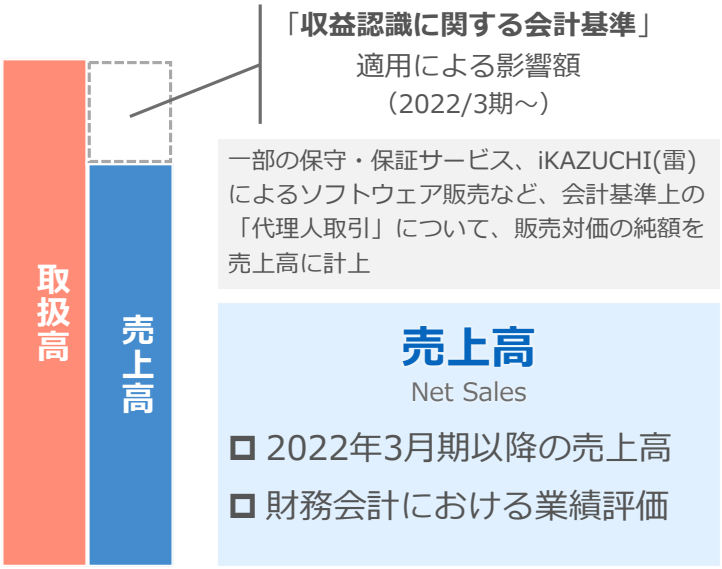
- 中期経営計画の概要（2025/3～2027/3）
- 事業概要
- ITインフラ流通事業の「取扱高」について
- 業績推移グラフ

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

ITインフラ流通事業の「取扱高」について

取扱高
Transaction Volume

- 2021年3月期以前の売上高と同じ基準で算出
（＝会計基準変更前の売上高）
- 取引規模を示す上で重要な指標となるため「取扱高」として継続して活用
- 管理会計における営業評価



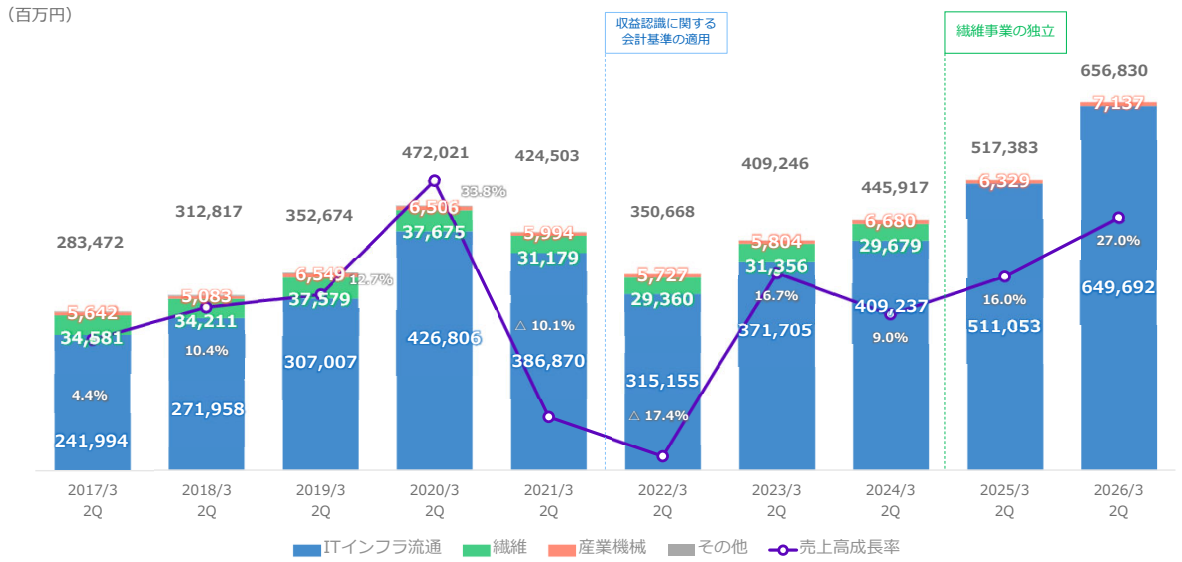
© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

参考資料

- 中期経営計画の概要（2025/3～2027/3）
- 事業概要
- ITインフラ流通事業の「取扱高」について
- 業績推移グラフ

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

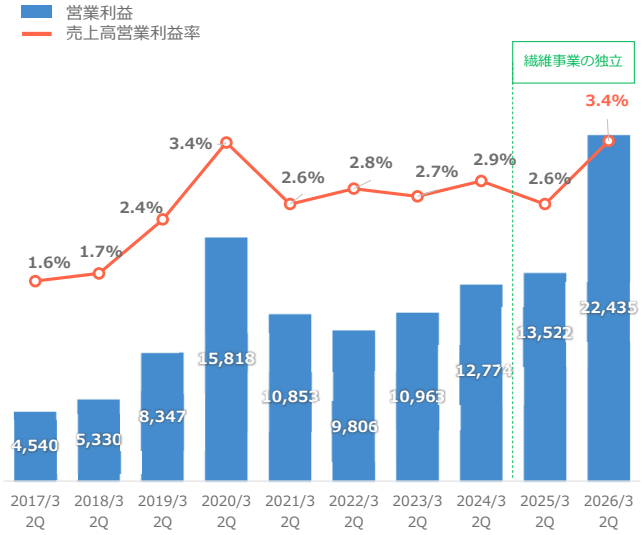
連結売上高（第2四半期）



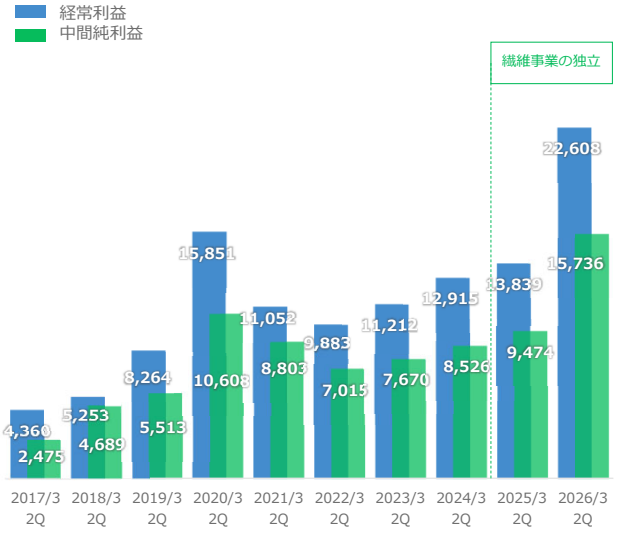
© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

連結営業利益・経常利益・純利益（第2四半期）

連結営業利益 (百万円)

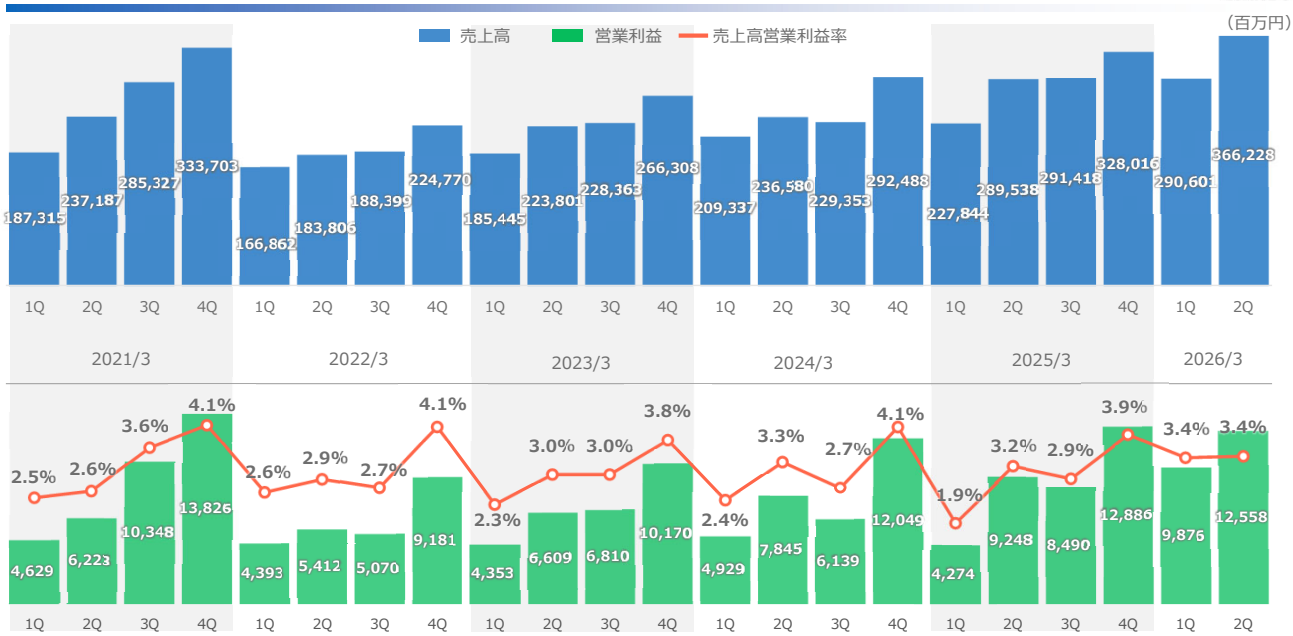


連結経常利益・中間純利益 (百万円)



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

四半期別業績　推移



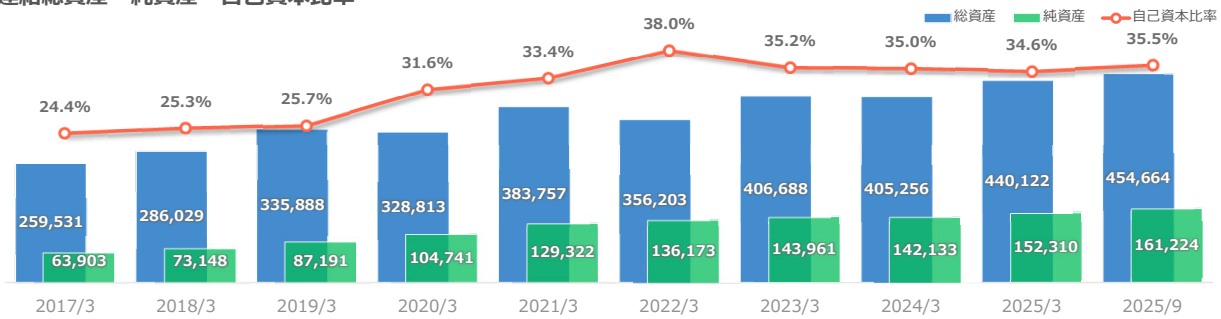
© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

連結総資産・純資産・自己資本比率/設備投資・減価償却額・研究開発費（第2四半期）

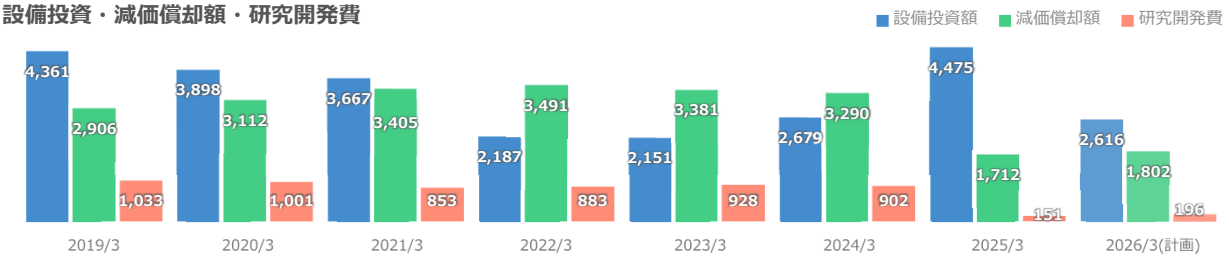
daiwabo

（百万円）

連結総資産・純資産・自己資本比率

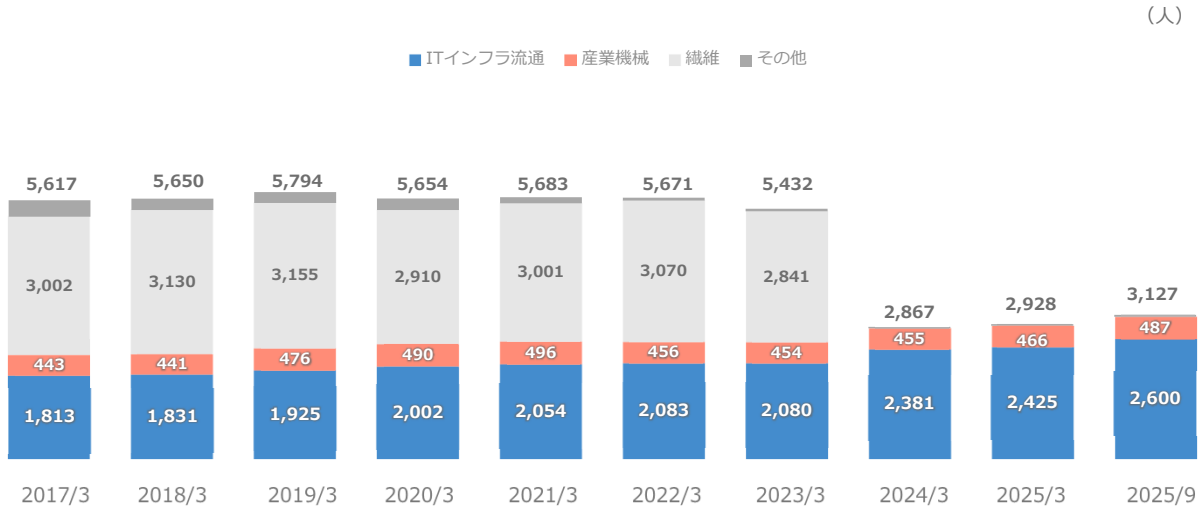


設備投資・減価償却額・研究開発費



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

セグメント別　従業員数



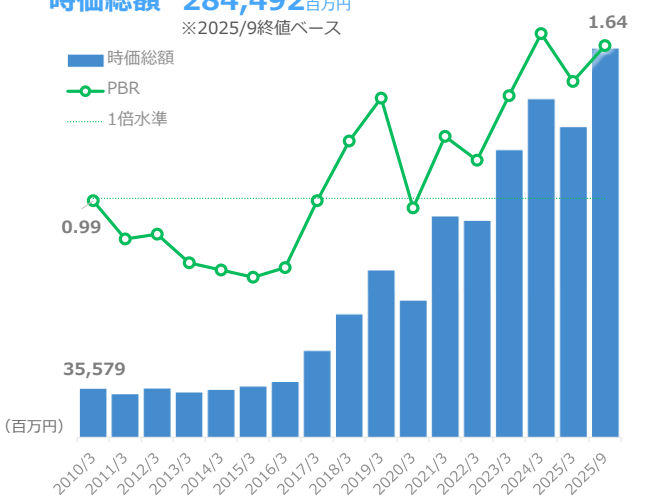
※各期間における最終日時点の人員数となります。

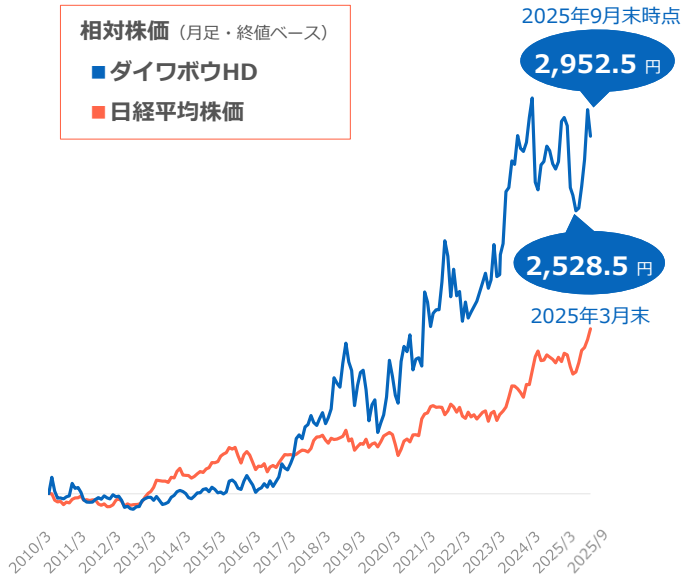
© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

株価推移

PBR　1.64倍

時価総額　284,492百万円
※2025/9終値ベース





※当社株価は株式併合（2017/10/1）・株式分割（2021/4/1）を過年度に遡及して表示

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

「統合報告書2025」発行のお知らせ

9月22日に「統合報告書2025」を発行し、当社Webサイトで公開しました。

3年目となる2025年版では、当社グループの「ありたい姿」（パーパス・中長期ビジョン）を起点に、価値の連鎖（バリューチェーン）をより明確に表現しました。また価値の源泉である人的資本の重要性をストーリー化し、「なくてはならない企業」への進化についてご紹介しています。
（表紙にもその意を込めました。）

ぜひ本報告書を通じて、当社グループの魅力・成長性・中長期的な価値創造への取り組みをご確認ください。

今後も、開示の充実とステークホルダーの皆様との対話を深めてまいります。

ダウンロード用QR

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

ダイワボウホールディングス株式会社　会社概要

本社所在地	〒530-0005　大阪市北区中之島3丁目2番4号 中之島フェスティバルタワー・ウエスト
設立日	大和紡績として創立　1941年4月1日 ダイワボウホールディングス設立 2009年7月1日
連結従業員数	2,928名（2025年3月末現在）
資本金	216億9,674万4,900円
株式	東証プライム市場　証券コード **3107**　／　業種：**卸売業**　**<JPX日経インデックス400**構成銘柄>
事業内容	**ITインフラ流通事業** ［中核会社］ DIS ダイワボウ情報システム株式会社 コンピュータ・周辺機器・ソフトウェアの販売 および物流サービス業 コンピュータ機器等の導入・保守・修理サービス業
	産業機械事業 ［中核会社］ オーエム製作所 工作機械、自動機械および鋳物製品の製造販売業

※大和紡績株式会社は2024 年 3月27日に独立いたしました。
（発行済株式の85%を株式会社アスパラントグループ へ譲渡）

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

ダイワボウホールディングス株式会社

https://www.daiwabo-holdings.com/

ニュース
https://www.daiwabo-holdings.com/ja/news.html
ダイワボウグループ一覧
https://www.daiwabo-holdings.com/ja/group.html
沿革
https://www.daiwabo-holdings.com/ja/company/history.html

【免責事項】

本資料に記載された業績予想値等の将来に関する記述は、現在入手可能な情報をもとに、当社が現時点で合理的であると判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、その正確性を保証するものではありません。実際の業績は、今後さまざまな要因により本資料の内容と異なる可能性のあることをご承知おきください。なお、当社は理由の如何にかかわらず、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても責任を負うものではありません。

※本資料中に記載されている会社名、製品名等は、各社の登録商標または商標です。

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.